

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「遠洋練習航海について」

湘南支部長 中尾 剛久

薫風香る五月がやってきました。ゴールデンウィーク期間中に、関東地方でも真夏日がありました。今年も夏の到来が早いのでしょうか？若葉が目に見えるこの爽やかな時期ができるだけ長く続いてほしいと思っています。

さて、五月は海上自衛隊の遠洋練習航海部隊（「日本国練習艦隊」と「日本」という国名を付けて名乗っています。国家の外交機能の一端を担っているという自負ですね。）が出国する時期にも当たります。

私たち海幹候三十六期生はちょうど四十年前に遠洋練習航海に出発しました。この年（一九八六年）は、アメリカで自由の女神像の百年記念国際観艦式が行われる年でした。ニューヨーク沖に世界中から軍艦が集まり、レーダー画面が一杯になるほどの単縦陣（縦一列）の陣形を整えた多数の軍艦が、ハドソン湾にせずと入港していった光景はとても印象的でした。百周年を迎えた自由の女神はもちろんですが、聳え立つ世界貿易センタービル（当時はまだ存在していました。）やエンパイア・ステートビルなどの摩天楼を背景にしたマンハッタン島の夕暮れや、我々の部隊の前に横付けていた現役の戦艦アイオワ（BB 61）の威容などは鮮明に思い出すことができます。観艦式の観閲官はレーガン大統領で、空母「ジョン・F・ケネディ」に座乗して観閲されました。

た。

その十年前、海幹候二十六期の先輩たちはアメリカ建国二百年記念の国際観艦式に参加されています。今年はそのから数えて五十年後、当然アメリカ建国二百五十年に当たることから、海幹候七十六期生を乗せた日本国練習艦隊は、再々度アメリカ主催の国際観艦式に参加することになると聞いています。トランプ大統領の考えや行動は予測不能なところがありますが、大統領自身こういった記念行事は何より好物のようです。たといえ、戦争が終結していかなくても実行されるのではないかと思います。我々と同様に、七十六期生をはじめとする参加隊員達もきつと生涯忘れえない思い出を得ることになるのだらうと思います。

今年の遠洋練習航海部隊を編成するのは練習艦「かしま」（TV 3508）と練習艦「やまざり」（TV 3515）ですが、この二隻がニューヨークに赴き、ハドソン川に自衛艦旗を翻す姿を想像すると心躍ります。余談ではありますが、我々と海幹候二十六期の先輩の時の遠洋練習航海部隊の編成は、いずれも練習艦「かとり」（TV 3501）と、当時海上自衛隊の中で最も美しいシルエットを誇った（注：個人の感想です。）護衛艦「ながつき」（DD 167）でした。単なる巡りあわせなのか、それとも選ばれたのか定かではありませんが、両艦ともすでに除籍されているため、三度目の登場は叶いませんでした。

場は叶いませんでした。

複数の艦艇が長期に渡って多数の寄港地を巡航するためには、その国や寄港地及び支援を依頼する港湾業者等のロジスティクス関連の情報や訪問国海軍も含めた事前調整が不可欠になります。遠洋練習航海のコースは訪問国と寄港地に多少の違いはあるものの、通常四つのパターン（北米、南米、世界一周、環太平洋の各コース）で行われるので過去の資料等を活用できるはずですが、諸般の理由から、時々特殊なコースになることがあります。二〇〇一年（平成四年）もそうでした。

この年は海上自衛隊にとつてはあまり馴染みのない、インド洋及び中近東方面のコースとなりました。いつもと違うコースなので情報収集や事前調整は大変だったと思います。ところがこれが後に大いに役に立ったという話が先日の水交会主催の日本国練習艦隊壮行会で河野克俊理事長からありました。その年の九月、アメリカで同時多発テロが起きました。日本は有志連合の一員として対テロ戦争に協力するため、対テロ特別措置法を成立させ、海上自衛隊の護衛艦二隻と補給艦一隻をインド洋に派遣しましたが、遠洋練習航海部隊が中近東方面で築いたネットワークが速やかな派遣と以後の円滑な部隊活動に大いに貢献したということでした。今年で七十回目を数える遠洋練習航海なので、全世界の主要国家・主要港に関する情報は蓄積されていると

思います。これは遠洋練習航海の違った側面での成果と言えるのかもかもしれません。いずれにしても、半年近くに及ぶ長い航海になりますから、事故なく、派遣隊員全員が元気に帰国することを願ってやみません。

相州藤沢 白旗神社

支部理事役 深澤 文晴

藤沢市にある白旗神社を参拝し、境内に点在する源義経公ゆかりの史跡を巡った。落ち着いた雰囲気の中で手を合わせるひとときは、歴史と信仰の両方を身近に感じられる時間となった。



手水舎の亀様



源義経公鎮霊碑

ゆかりの地であることをあらためて感じさせる。鳥居からそのまま進むと、左手には手水舎があり、亀の像が静かに鎮座していた。手水で身を清め、穢れを流してから参拝に向かった。

石段を上る途中には、源義経公の鎮霊碑が建てられている。足を止めて手を

合わせると、自然と気持ちが引き締まるようだった。義経公の力を少し分けてもらえたように感じられ、参拝の中でも特に心に残る場面となった。



白旗神社 本殿

さらに階段を登りきると、本殿が姿を現す。無事に参拝を済ませた後、右側に目を向けると「弁慶の力石」があった。触れると健康のご利益があると伝えられており、両手で約1分間しっかりと触れて健康を祈願した。



弁慶の力石

歴史上の人物にまつわる銅像や碑にふれながら参拝できる白旗神社は、地域の身近な歴史を感じられる場所の一つ。藤沢のまちの中で、静かに心を整えられる参拝スポットとして親しまれていることが伝わってきた。



白旗神社の大鳥居と御朱印

命のムダを無くす工夫

支部理事役 鼓 達也



杜号標

筆者は仕事上高齢者に関わることも多く、戦前の食文化について話を聴くことも多い。当時はスーパードブやコンビニなど存在せず子どもの頃から野兔、猪、蛇、川魚などを捕まえており食べ方や皮や骨の活用方法まで教えてくれて無駄なく活用されていたそうである。

駆除された野生動物はどこに行くのか？

衛生面などからその場にそのまま放置することはできないのでハンターが解体して施設に持ち込むことが多い。処理方法は自治体にもよるが通常焼却することになり清掃センターなどのゴミ処理施設が実施している自治体もある。廃棄物処理法、家畜伝染病予防法などでも規定されている。畜産業やと畜場などの事業活動に伴って生じたものは「産業廃棄物」として分類され、家庭で飼育されていたペットは、「一般廃棄物」として扱われるが自治体により異なる。人間の火葬に使用される燃料は、灯油、重油、気体燃料が主に使用され白灯油を用いるでは火葬炉では40〜60ℓ/体ぐらい必要とされる。一方熊では灯油約100ℓ/体ほど要し通常の火葬場では困難である。北海道のとある地域では駆除数が20倍近くになり燃料費や処理施設の稼働がひっ迫しているという、さらに原油高もひっ迫原因となる。野生動物を放置すれば

人的被害や作物被害が増し駆除することで燃料費も必要となってしまうどのみち損失が生じる。

ではどうするか、資源の有効活用しなくてはならない。神奈川県秦野市でジビエ料理の秦野市鶴巻地区を「ジビエの食べられる街」としてアピールするイベント「鶴巻温泉ジビエマルシェ」という催しが開催された。2018年に農林水産省により「国産ジビエ認証制度」が制定され、衛生的な取扱いがなされることにより飲食店などにメニューとしての採用や、学校給食でも採用されやすくなった。野生動物のため安定供給は難しいが、駆除された野生動物の命を無駄にしない為にもジビエ料理などに有効活用することで資源となる。また皮や角などを用いた様々な製品にも活用できる。企業によつてはペットフードに活用していることもある。ただ処理する場合は野生動物の命とハンター費用・燃料費の出費だけであるが資源活用することで鳥獣被害の抑制、食文化の充実、地域経済活性化という経済的効果が期待できるかも知れない。

令和8年度年会費納入者(順不同・敬称略)

湘南支部長(五月十八日現在)

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別法人会員

テクノブリッジ様、

特別会員

野村昌平、尾上洋一、小池淑子、星野剛士、牧石健志、宮城寛映、

国松誠、河野太郎、佐奈田幸一、原博章、松長泰幸、中根圭介、山本哲、川内美喜男、和栗清、原康二、

正会員

石川潤一、岡崎光博、高鹿治雄、小林貞雄、田中宏治、二挺木智也、濱口浩二、平形武夫、桜庭憲昭、渡辺一正、伊藤靖史、荻原洋聡、横山安廣、小林勉、小見山雅、池田周平、榎木実、野田義信、

終身(寄付者)

青山元彦、尾崎謙一、清崎忠園、高木幸夫、高見巖、平川幹雄、宮崎栄介、今武孝之、蛭田信次、深澤文晴、福樂勲、堀井光男、西村剛、関克行、澤野憲二、寺中哲夫、山岸征洋、

支部会員の訃報
謹んでご冥福をお祈り致します

正会員 故 鈴木 幸吉 氏

令和6年 ご逝去

「支部の予定」

- ・06/06 (土) 第3回支部理事役会
- ・06/19 (金) 6月号隊友紙発送
- ・07/04 (土) 第4回支部理事役会
- ・07/17 (金) 7月号隊友紙発送
- ・08/08 (土) 第5回支部理事役会
- ・08/中旬 部隊研修(部隊未定)
- ・08/17 (月) 8月号隊友紙発送

編集後記

4月21日大分県日出生台演習場で実弾射撃訓練中の10式戦車で暴発事故が発生し3名死亡、1名が重症を負った。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。